



4000円

昭和50年9月17日

特許庁長官 廣 藤 英 雄 殿

- 1 発明の名称 **地下室付住宅**
- 2 発明者 **大阪府門真市大字門真1048番地
ナショナル住宅建材株式会社内
加 納 義 久**
- 3 特許出願人 **大阪府門真市大字門真1048番地
ナショナル住宅建材株式会社
代表者 西 宮 重 和**
- 4 代理人弁護士 **東京都千代田区三番町9番1号
麹町三番町マンション216号室
(6813) 伊 藤 和 三 郎**

5 添附書類の目録

- (1) 明 細 書 1 通
 - (2) 図 面 1 通
 - (3) 委 任 状 1 通
 - (4) 願 書 副 本 1 通
- 出願のAを添付のものを採用下さる

明 細 書

発明の名称 **地下室付住宅**

特許請求の範囲

採光装置を有する傾斜部と、この傾斜部に接続する垂直部と、この垂直部に接続する底部とよりなるドライエリヤ構成部材の複数個を、隣接同志連結せしめて地下室付住宅の地下室外壁にドライエリヤを構成してなる地下室付住宅。

発明の詳細な説明

本発明は地下室付住宅に関するもので、その目的とするところは構造簡單、組立容易なプレハブ化したドライエリヤ構成部材を提供しようとするものである。

以下図面を参照して本発明をその一実施例につき説明すると、1は住宅構造物で、2は一階部分、3は地下室部分である。4はプレハブ化したドライエリヤ構成部材で、この構成部材4は上端縁を地下室外壁5に固着される傾斜部6とこれに接続した垂直部7と底部8とよりなり、傾斜部6の上

① 日本国特許庁

公開特許公報

⑪特開昭 52-35433

⑬公開日 昭52.(1977) 3.18

⑭特願昭 50-111517

⑮出願日 昭50.(1975) 9.13

審査請求 未請求 (全3頁)

庁内整理番号

6434 22

⑫日本分類

89/A11

⑬ Int. Cl²

E04H 1/02

縁部6'は地下室外壁5にタッピン雄子又はボルト1により固着され、傾斜部6'は隣接の構成部材4'の傾斜部6'に水密パッキング10を挿着してボルト1により連結固着される。又、垂直部7の傾斜部7'および底部8の傾斜部8'は何れも隣接の垂直部7'の傾斜部7'および底部8'の傾斜部8'に夫々水密パッキングを介してボルト1により接続される。

1は傾斜部6に開閉自在に装着した採光窓で、この採光窓1は開閉自在とすることなくはめこるにしても良いこと勿論である。1は垂直部7に装着した補強板で、この補強板1は構成部材4自体の強度が充分な時には殊更装着する必要はないものである。

尚、4はコーナー用の構成部材で、このコーナー用構成部材4は前述と同様に隣接の構成部材4と連結せしめられるものである。

又、第4図はドライエリヤの一端縁を構造物1、本体の外壁1'により土圧からの損壊を防止するものである。

第7図および第8図は構成部材4の側面を示したもので、垂直部7に接続される底部8の状態を現わしたもので、使用上成いは集造上からその何れを採用しても良いものであるが、第7図に示すものの方が構造的には有利であり、しかも安価に製作し得る特長がある。

従来のこの種地下室付住宅においては、第1図および第2図に示すように、地下になる部分を掘削したあと、鉄骨、コンクリート等で、よう壁を作り、これにより土圧から建造物を擁護していたが、このよう壁は土圧によつて転倒するのを防ぐため、よう壁下部、よう壁部共極めて丈夫に作る必要があり、コスト高のため実際にはまれにしか実施されていないものであつた。

本発明はこれら従来の欠点を解消し得るもので傾斜部、垂直部および底部よりなるドライエリア構成部材をユニット化し、これを順次接続固着することにより、ドライエリアを容易に形成せしめ得るものである。

本発明はこれらの点において実用上有効便利で

ある。

図面の簡単な説明

第1図および第2図は従来の地下室付住宅の構築過程を示す斜視図、第3図は本発明地下室住宅の一実施例の斜視図、第4図は他の実施例の斜視図、第5図はドライエリアユニットの斜視図、第6図は連結部分の拡大図、第7図および第8図はドライエリアユニットの形状説明図である。

1…住宅構造物、2…一階部分、3…地下室部分、4…ドライエリア構成部材、5…地下室外壁、6…傾斜部、7…垂直部、8…底部、9…ボルト、10…水密パッキング、11…ボルト、12…採光窓、13…補強板。

特許出願人

ナショナル住宅建材株式会社

代理人

伊 藤 和 三 郎



